

## IV 鳥類

### 1. 調査方法

#### (1) 調査地点

森ヶ崎の鼻・12号地貯木場・葛西沖人工渚・お台場周辺（お台場海浜公園及び第六台場）の4地点。  
（図I-1参照）

#### (2) 調査方法

環境監視船上から双眼鏡又は望遠鏡を使用して、以下の調査を月1回の頻度で行った。葛西沖人工渚のみ上陸して陸上より調査を行った。

- ① 鳥類の同定及び個体数の計測（干潟、海上等にいる鳥を対象とし、上空を通過する鳥は含まない）
- ② 採餌行動等の観察
- ③ 天候、気温、風向・風速の記録

平成7年度より干潟の干出面積が大きくなるように、原則として大潮の干潮時に調査を行っている。ただし、時期により干潟の干出面積は異なる。（傾向として秋から冬にかけて干出面積は減少する）

注）鳥類調査は年度により調査回数・頻度が異なっている。平成10年度までは、お台場海浜公園を除く現在の3地点を含む計8地点で月1回の調査を行っている。また、平成11年度から平成13年度までは現在の4地点で月2回の調査を行っている。

#### (3) 対象鳥類

以下の鳥類に限定して調査した。

アビ目、カイツブリ目、ミズナギドリ目、ペリカン目、コウノトリ目、カモ目、タカ目（魚食性的のものに限る）、ツル目、チドリ目、ブッポウソウ目カワセミ科、スズメ目セキレイ科（「日本鳥類目録 改訂第6版」（日本鳥学会、2000）より）

なお本報告書では、平成13年度以前の報告書におけるガンカモ科はカモ科に、ワシタカ科はタカ科になっている。

### 2. 調査結果

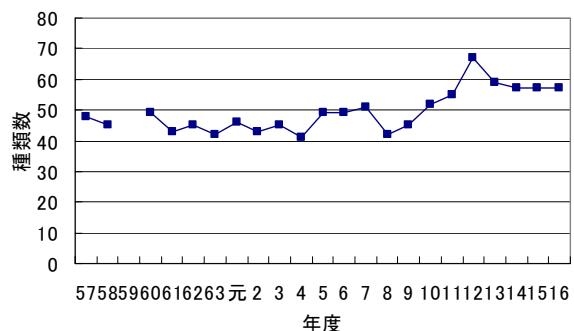
#### (1) 調査概況

平成16年度調査で観察された鳥類の出現種のリストを表IV-1に、鳥類出現種類数の経年変化を図IV-2に示す。また、月別、地点別出現状況を資料編の表III-1～5に示す。

平成16年度の総出現種類数は57種であり、平成14・15年度と同数であった。これまでは、平成12年度の67種が最高であるが、この年度は月

2回調査を行っており、現在より調査頻度が高い。一方、月1回8地点で調査を行っていた平成10年度までは40～50種であったことから、当時と比較すると種類数は多いと考えられる。なお、今年度調査で初めて確認された種はヨシゴイ（サギ科）とカラシラサギ（サギ科）の2種であった。

地点別の出現状況を表IV-2に示す。出現種類数が最も多かった地点は葛西人工渚で40種、最も少なかった地点は12号貯木場とお台場海浜公園の26種であった。なお、4地点全てで観察された種は、ハジロカイツブリ・カワウ・ダイサギ・アオサギ・マガモ・カルガモ・ヒドリガモ・オナガガモ・ホシハジロ・スズガモ・キョウジョシギ・ハマシギ・キアシシギ・ユリカモメ・セグロカゴメ・ウミネコ・



図IV-2 鳥類出現種類数の経年変化

コアジサシなど 18 種であった。年間総個体数は、葛西沖人工渚が 75.4%と平成 15 年度と同様に多数を占めた。

表IV-2 鳥類地点別出現状況

(平成 16 年度)

	森ヶ崎の鼻	12号地貯木場	葛西沖人工渚	お台場海浜公園	計
種類数	35	26	40	26	57
個体数	4,742	5,501	70,375	12,723	93,341
個体数割合(%)	5.1	5.9	75.4	13.6	

## (2) 科別の出現状況

### ①カイツブリ科

カイツブリ・ハジロカイツブリ・ミミカイツブリ・アカエリカイツブリ・カンムリカイツブリの 5 種が確認された。このうち、ハジロカイツブリは 4 地点全てで観察された。

カイツブリを除く 4 種類は冬鳥であるため、全ての地点でほぼ冬季にのみ観察される。特に、カンムリカイツブリは葛西沖人工渚で冬季に多く観察され、スズガモ (52%) に続いて多い (12%)。また、ミミカイツブリとアカエリカイツブリは本調査で確認されることは珍しいが、ともに平成 14 年度から続いて観察された。

### ②ウ科

カワウ 1 種のみが観察された。全地点で一年中観察されており、個体数も多い。干潟や樹上で休息中の個体に加えて、水中で潜水採餌する個体も頻繁に観察された。また、第六台場では 4 月から 6 月にかけて順調に繁殖を行っていることが確認された。

### ③サギ科

ゴイサギ・ダイサギ・チュウサギ・コサギ・クロサギ・アオサギの他、本年初めてヨシゴイ、カラシラサギが 7 月第六台場で観察されて併せて 8 種となった。このうち、全地点で観察された種は、アオサギ・ダイサギの 2 種である。ゴイサギ・ダイサギ・コサギは留鳥であり、主に春から夏にかけて観察された。ただし、第六台場ではアオサギのみ一年中観察された。

### ④カモ科

カルガモ・スズガモなど計 11 種が観察された。このうち全地点で観察された種は、カルガモ・ヒドリガモ・オナガガモ・ホシハジロ・スズガモ・マガモの 6 種である。一年中観察されるカルガモを除くと、全ての種が冬鳥であることから、全地点で冬季に種類数・個体数ともに増加する。特に、スズガモは森ヶ崎の鼻を除く 3 地点で冬季及び年間で最も多い個体である。

### ⑤チドリ科・シギ科

チドリ科はシロチドリ・ダイゼンなど 5 種が、シギ科はハマシギ・キアシシギなど 11 種が観察された。そのうち、全地点で確認された種は、キアシシギ・キョウジョシギ・ハマシギの 3 種である。干潟のある葛西沖人工渚と森ヶ崎の鼻では種類数・個体数とも多い。葛西沖人工渚は冬季に旅鳥または冬鳥であるハマシギが多く観察された。また、春から夏にかけて個体数は少ないが、様々な種類が観察された。森ヶ崎の鼻では、夏期に種類数・個体数とも多く、一方、12 号地貯木場とお台場周辺では種類数・個体数ともわずかであり、干潟の有無により個体数の差が大きい。

## ⑥カモメ科

ユリカモメ・セグロカモメ・ウミネコ・コアジサシなど7種が観察された。全地点で観察された種は、ユリカモメ・セグロカモメ・ウミネコ・コアジサシの4種であった。ウミネコ・コアジサシを除くと冬鳥として越冬する種が多いことから、平成16年度調査でもウミネコ・コアジサシ以外は秋から春にかけて個体数が多い。特にユリカモメは、森ヶ崎の鼻では10月～3月で最優占種であり、お台場海浜公園でもスズガモに続いて個体数が多い。一方、ウミネコは夏から秋にかけて、コアジサシは春から夏にかけて個体数が多い。夏鳥として渡来し繁殖するコアジサシは、15年度に近くの水再生センター屋上でコロニー（集団営巣地）を形成していたが、16年度は近隣の羽田空港内にコロニーを移したとみられ、4月は278羽であったが、6月には3羽が確認されたのみであった。コアジサシは環境省の日本版レッドリストでは絶滅危惧Ⅱ類（絶滅の危機が増大している種）に該当している。

## ⑦その他

その他には、トキ科のクロツラヘラサギ、タカ科のミサゴ、クイナ科のバン、オオバン、ミヤコドリ科のミヤコドリ、セイタカシギ科のセイタカシギ、セキレイ科のハクセキレイ・タヒバリが観察された。

### （4）調査地点別の出現状況

各調査地点の1年間の種類別優占度及び夏期(6～8月)の種類別優占度を図IV-3に示す。

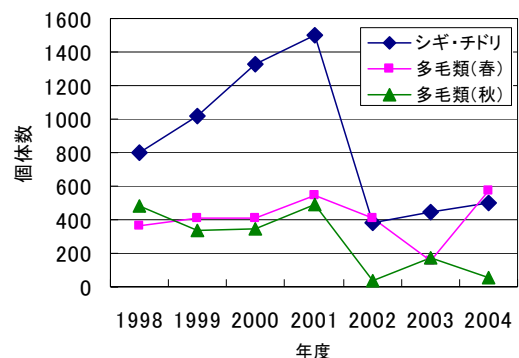
#### ①森ヶ崎の鼻

羽田空港・昭和島・京浜島に囲まれた場所にあり、干潮時には大きな干潟が現れる。一方、満潮時には完全に水面下になることもある。餌となるゴカイや貝類が豊富なうえ、陸から人が歩いて入れないため、干潮時には多くの鳥が餌を求めて集まっている。なお、干潟だけでなく周辺の水面や西側の護岸周辺にいる鳥も調査対象としている。

毎月観察された種はカワウのみであった。また、セグロカモメがほぼ一年中観察された。しかし、他の地点のようにスズガモを主としたカモ類が多数を占めてはいない。春から夏にかけては、シギ科のハマシギやカモメ科のコアジサシが多く観察された。夏から秋にかけてはカルガモやウミネコが多かった。冬季は、コガモ・ホシハジロ等のカモ類とユリカモメが多く観察された。年間個体数が最も多かった種は、平成15年度と同様にユリカモメであった。干潟が広がることから、他の地点と比べて特に夏場シギ・チドリ類が多かった。しかし、16年度はハマシギが5月に多かったもののシギ・チドリ科が例年より少なかった。以前と比べて、底生生物の現存量が近年減少傾向にあり、昨年はゴカイが第一優占種であったものが、16年度はアサリであり、シギ・チドリ類の好む多毛類が夏期に減っている傾向があり、それが関係している可能性がある。



森ヶ崎の鼻（潮位 AP+0.3m 程度）



図IV-4 シギ・チドリの数と多毛類

## ②12号地貯木場

中央防波堤内側埋立地の北で、有明・辰巳・新木場・若洲地区に囲まれた場所にある。貯木量の増減により鳥の数や種類も変化するが、現在では、ほとんどの調査日で貯木量が少ないことから、貯木で休息する種より、水面で休息・採餌する種が多い傾向がある。なお、南側の防波堤も調査対象としている。

12号地貯木場の特徴としては、冬季に種類数は少ないが個体数が多い傾向がある。その中でも、スズガモの群れが水面で休息している様子が多く観察される。他には、冬季にはホシハジロ・セグロカモメ、春から秋にかけてはウミネコが多く、例年と同様の傾向であった。また、カワウは毎月観察され、カルガモ・セグロカモメもほぼ一年中観察された。



12号地貯木場（開放水面が広がっている）

## ③葛西沖人工渚

旧江戸川河口と荒川河口の間の葛西沖に造られた人工干潟。東渚と西渚に分かれており、そのうち鳥類保護のため立入禁止となっている東渚を調査対象としている。かつては船上からの調査を行っていたが、渚が遠浅であることから、物陰に隠れた鳥や小さな鳥の観察は困難であったので、現在は上陸して調査を行っている（ただし、干潟の見える場所から望遠鏡等で観察）。立入禁止であることから、種類数、個体数ともに多い。干潟だけでなく、遠浅の海面上にいる鳥も対象としている。



葛西沖人工渚（東京湾を望む）

年間個体数が最も多いのはスズガモであり、全体の52%を占めている。その他には、カワウ・カンムリカイツブリ・ウミネコ・ハマシギ・ユリカモメが多く観察された。季節ごとでは、冬季にカンムリカイツブリとスズガモが海面上に、ハマシギやシロチドリが干潟部に多い。特に、カイツブリ類は他の調査地点と比べて非常に多く観察された。一方、夏期にはウミネコやカワウが多かった。シギ・チドリ類は、個体数の優占度としては決して高くないが、カモ類やカワウ、カンムリカイツブリ、ウミネコの個体数が非常に多いためであり、種類数・個体数は森ヶ崎の鼻と並んで多い。

7月にカラシラサギが初めて観測された。1月にはズグロカモメが周辺の杭や汀線で休息しているのが観測された。ズグロカモメは九州北部に冬鳥として飛来するが、本州では珍しい種である。

調査地にミサゴやハヤブサなどタカ類が休息していたり、飛来したことにより、シギ・チドリ類やマモメ類等の一部が飛去したまま、戻ってこないことが3回あった。

## ④お台場周辺

お台場海浜公園とレインボーブリッジの近くにある第六台場を併せた地域である。お台場海浜公園は、2つの人工島と第三台場、砂浜、岩場にかけての地域及びそれらに囲まれた水面を調査対象としている。特に夏休みには、観光客を中心にとくさんの人が訪れる場所である。第六台場は人の立入りが禁止され

ており、現在はカワウのコロニーが存在する。

お台場海浜公園において年間個体数が多いのはスズガモ・ユリカモメで、年間の個体数割合（第六台場除く）はそれぞれ 49%、31%であった。両種とも秋から春にかけて観察され、スズガモは主に水面に、ユリカモメは砂浜やくいの上など様々な場所で観察された。また、オナガガモやセグロカモメも冬季に多く観察された。他には、カルガモが春から夏に、ウミネコが夏から秋に、カワウは一年中観察された。また、シギ・チドリ類は観察されない月が多かった。7月調査で、ヨシゴイ、カラシラサギが初めて確認された。

第六台場は、平成 15 年度と同様に、カワウが年間総個体数の 90%以上を占め、一年中観察された。カワウは冬季に繁殖期を迎え、春ごろには雛が誕生するが、平成 16 年度は冬から春にかけて特に多く観察されており、繁殖期をむかえて増えたものと考えられる。

お台場海浜公園対岸の人が立ち入れない防波堤の広葉樹において、カワウが営巣しているのを確認しており、第六台場におけるコロニーが拡大しているものと考えられる。

砂浜及び汀線では、採餌・休息するオナガガモやユリカモメが観察された。これらの個体は人から餌をもらっていた。



お台場海浜公園  
(上：南西側の岩場、下：北東側の砂浜)

### 3. 平成 16 年度調査のまとめ

平成 16 年度の鳥類調査の結果を以下にまとめる。

- ・ 平成 16 年度の総出現種類数は 57 種で、平年どおりであった。
- ・ 出現種類数、個体数は、全ての地点の中で葛西人工渚が最も多かった。
- ・ 森ヶ崎の鼻では、シギ・チドリ類の個体数が増加していたが、16 年度は少なかった。夏期の底生生物の現存量が減少していることに関係している可能性がある。
- ・ 昭和 57 年度の調査以来、初めてヨシゴイ（サギ科）とカラシラサギ（サギ科）の 2 種を確認した。

(参考文献)

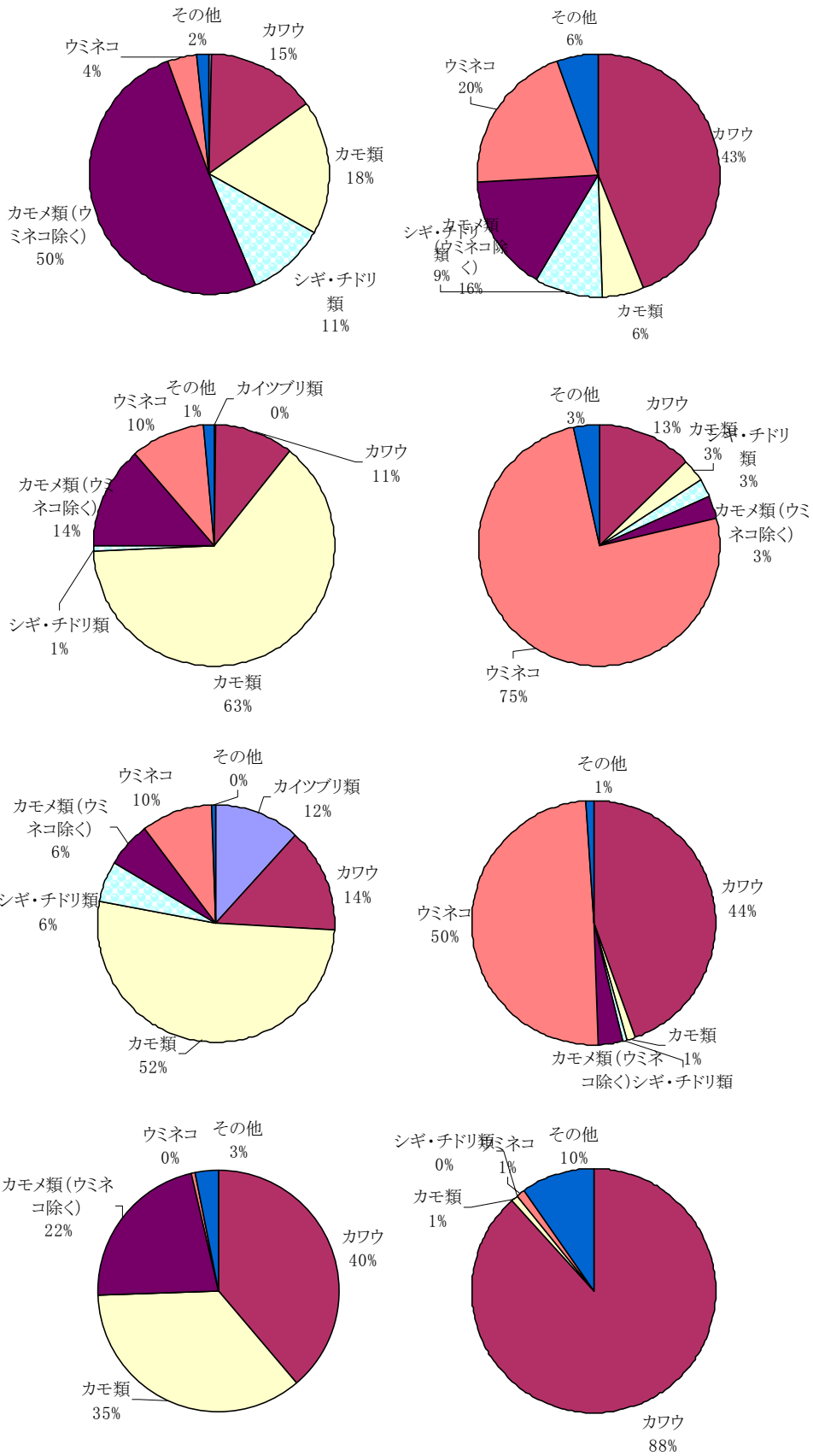
- (1) 山と溪谷社、日本の野鳥、p212

表IV-1

## 鳥類出現種リスト

目	科	種名
カイツブリ目		PODICIPEDIFORMES
カイツブリ科		PODICIPEDIDAE
	1	カイツブリ <i>Tachybaptus ruficollis</i>
	2	ハジロカイツブリ <i>Podiceps nigricollis</i>
	3	ミミカイツブリ <i>Podiceps auritus</i>
	4	アカエリカイツブリ <i>Podiceps grisegena</i>
	5	カンムリカイツブリ <i>Podiceps cristatus</i>
ペリカン目		PELECANIFORMES
ウ科		PHALACROCORACIDAE
	6	カワウ <i>Phalacrocorax carbo</i>
コウノトリ目		CICONIIFORMES
サギ科		ARDEIDAE
	7	ヨシゴイ <i>Ixobrychus sinensis</i>
	8	ゴイサギ <i>Nycticorax nycticorax</i>
	9	ダイサギ <i>Egretta alba</i>
	10	チュウサギ <i>Egretta intermedia</i>
	11	コサギ <i>Egretta garzetta</i>
	12	カラシラサギ <i>Egretta eulophotes</i>
	13	クロサギ <i>Egretta sacra</i>
	14	アオサギ <i>Ardea cinerea</i>
トキ科		THRESKIORNITHIDAE
	15	クロツラヘラサギ <i>Platalea minor</i>
カモ目		ANSERIFORMES
カモ科		ANATIDAE
	16	マガモ <i>Anas platyrhynchos</i>
	17	カルガモ <i>Anas poecilorhyncha</i>
	18	コガモ <i>Anas crecca</i>
	19	オカヨシガモ <i>Anas strepera</i>
	20	ヒドリガモ <i>Anas penelope</i>
	21	オナガガモ <i>Anas acuta</i>
	22	ハシビロガモ <i>Anas clypeata</i>
	23	ホシハジロ <i>Aythya ferina</i>
	24	キンクロハジロ <i>Aythya fuligula</i>
	25	スズガモ <i>Aythya marila</i>
	26	ウミアイサ <i>Mergus serrator</i>
タカ目		FALCONIFORMES
タカ科		ACCIPITRIDAE
	27	ミサゴ <i>Pandion haliaetus</i>
ツル目		GRUIFORMES
クイナ科		RALLIDAE
	28	バン <i>Gallinula chloropus</i>
	29	オオバン <i>Fulica atra</i>
チドリ目		CHARADRIIFORMES
ミヤコドリ科		HAEMATOPODIDAE
	30	ミヤコドリ <i>Haematopus ostralegus</i>
チドリ科		CHARADRIIDAE
	31	コチドリ <i>Charadrius dubius</i>
	32	イカルチドリ <i>Charadrius placidus</i>
	33	シロチドリ <i>Charadrius alexandrinus</i>
	34	メダイチドリ <i>Charadrius mongolus</i>
	35	ダイゼン <i>Pluvialis squatarola</i>
シギ科		SCOLOPACIDAE
	36	キョウジョシギ <i>Arenaria interpres</i>
	37	トウネン <i>Calidris ruficollis</i>
	38	ハマシギ <i>Calidris alpina</i>
	39	アオアシシギ <i>Tringa neblaria</i>
	40	キアシシギ <i>Heteroscelus brevipes</i>
	41	イソシギ <i>Actitis hypoleucos</i>
	42	ソリハシシギ <i>Xenus cinereus</i>
	43	オオソリハシシギ <i>Limosa lapponica</i>
	44	ダイシャクシギ <i>Numenius arquata</i>
	45	ホウロクシギ <i>Numenius madagascariensis</i>
	46	チュウシャクシギ <i>Numenius phaeopus</i>
セイタカシギ科		RECURVIROSTRIDAE
	47	セイタカシギ <i>Himantopus himantopus</i>
カモメ科		LARIDAE
	48	ユリカモメ <i>Larus ridibundus</i>
	49	セグロカモメ <i>Larus argentatus</i>
	50	オオセグロカモメ <i>Larus schistisagus</i>
	51	ウミネコ <i>Larus crassirostris</i>
	52	ズグロカモメ <i>Larus saundersi</i>
	53	アジサシ <i>Sterna hirundo</i>
	54	コアジサシ <i>Sterna albifrons</i>
スズメ目		PASSERIFORMES
セキレイ科		MOTACILLIDAE
	56	ハクセキレイ <i>Motacilla alba</i>
	57	タヒバリ <i>Anthus spinoletta</i>

(森ヶ崎の鼻)



図IV-3 各調査地点における種別別優占度  
(左：1年間、右：6～8月)

表IV-3 鳥類の月別出現状況(全地点合計で11羽以上)

科	和名	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
カイツブリ	ハジロカイツブリ												
	カンムリカイツブリ												
ウ	カワウ												
サギ	ダイサギ												
	コサギ												
	アオサギ												
カモ	マガモ												
	カルガモ												
	コガモ												
	ヒドリガモ												
	オナガガモ												
	ホシハジロ												
	スズガモ												
	オオバン												
	チドリ	シロチドリ											
ダイセン													
シギ	キョウジョシギ												
	トウネン												
	ハマシギ												
	キアシシギ												
	オオソリハシシギ												
カモメ	ユリカモメ												
	セグロカモメ												
	ウミネコ												
	アジサシ												
	コアジサシ												
11羽以上種類数		8	12	10	10	13	8	11	14	13	15	16	16

注) 全地点で11羽以上となった種類を薄い網掛けに、1000羽以上となった種類を濃い網掛けとした。



「東京の川と海のいきもの」より



表Ⅳ-4 鳥類種別経年出現状況(全地点)

科	種名	S57	S58	S60	S61	S62	S63	H元	H2	H3	H4	H5	H6	H7	H8	H9	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16		
カイツブリ	カイツブリ																								
	ハジロカイツブリ																								
	ミミカイツブリ																								
	アカエリカイツブリ																								
ミズナギドリ	カンムリカイツブリ																								
	オオミズナギドリ																								
ウ	ハシボソミズナギドリ																								
	カワウ																								
サギ	ヨシゴイ																								
	ゴイサギ																								
	ササゴイ																								
	ダイサギ																								
	チュウサギ																								
	コサギ																								
	カラシラサギ																								
	クロサギ(白色型)																								
トキ	アオサギ																								
	ヘラサギ																								
カモ	クロツラヘラサギ																								
	マガモ																								
	カルガモ																								
	コガモ																								
	ヨシガモ																								
	オカヨシガモ																								
	ヒドリガモ																								
	オナガガモ																								
	ハシビロガモ																								
	ホシハジロ																								
	オオホシハジロ																								
	キンクロハジロ																								
	スズガモ																								
	ホオヅロガモ																								
	ミコアイサ																								
	ウミアイサ																								
トモエガモ																									
シマアジ																									
クロガモ																									
タカ	ミサゴ																								
クイナ	バン																								
	オオバン																								
クイナ	クイナ																								
ミヤコドリ	ミヤコドリ																								
チドリ	ハジロチドリ																								
	コチドリ																								
	シロチドリ																								
	メダイチドリ																								
	オオメダイチドリ																								
	イカルチドリ																								
	ムナクロ																								
	ダイゼン																								
シギ	キョウジョシギ																								
	トウネン																								
	ウスラシギ																								
	ハマシギ																								
	サルハマシギ																								
	コオハシギ																								
	オハシギ																								
	ミユビシギ																								
	エリマキシギ																								
	キリアイ																								
	アオアシシギ																								
	キアシシギ																								
	イソシギ																								
	ソリハシシギ																								
	オグロシギ																								
	オオソリハシシギ																								
	ダイシャクシギ																								
	ホウロクシギ																								
チュウシャクシギ																									
タシギ																									
コアオアシシギ																									
アカアシシギ																									
セイタカシギ	セイタカシギ																								
ヒレアシシギ	アカエリヒレアシシギ																								
カモメ	ユリカモメ																								
	セグロカモメ																								
	オオセグロカモメ																								
	ワシカモメ																								
	シロカモメ																								
	カモメ																								
	ウミネコ																								
	ズグロカモメ																								
	ミツユビカモメ																								
	ワライカモメ																								
クロハラアジサシ																									
アジサシ																									
コアジサシ																									
カワセミ	カワセミ																								
セキレイ	キセキレイ																								
	ハクセキレイ																								
	セグロセキレイ																								
	タヒバリ																								

## 魚をとる鳥

頭と羽の先が黒い



### コアシサシ

夏、日本に渡ってきて、小石まじりの砂浜でヒナを育てる。水中にとびこんで小魚をとる。

### カワウ

水にもぐって魚をとる。上野動物園に集団で巣をつくり、毎日東京港や多摩川にとんできてエサをとる。



### コサギ

水辺で魚や貝などを食べる。一年中みられる。



← 黄色いあしゆび

## もぐって貝などをとるカモ



### スズガモ

冬、遠い国に大群でとんでくる。水にもぐって貝などを食べる。



### キンクロハジロ

もぐって、小魚や貝などを食べる。冬、渡ってくる。



### ホシハジロ

もぐって貝や水草の根などを食べる。冬、渡ってくる。



### オナガガモ

冬鳥として、沼や湖、水辺にたくさんとんでくる。

## 水辺の草の種や根を食べるカモ

白い切れこみ



### カルガモ

動物質のエサも食べる。春にヒナガカえる。